

校長通信

東京都立戸山高等学校

校長 布施 洋一

リーダーシップとフェローシップ

5月9日(火)に恒例の運動会が行われました。高校では「体育祭」という行事名を使う学校が多いのですが、敢えて「運動会」というところが、これも130年の歴史を持つ戸山の伝統なのだと思います。

戸山の運動会は学年を縦割りにした赤・青・黄・緑の4級団の対抗形式です。100m走や全員リレー、騎馬戦や大縄跳びといった運動会ではお馴染みの競技のほかに、各級団がマスコットを作成するとともに、趣向を凝らした応援合戦を行い、それらも採点の対象となります。最終結果は黄級の2年連続優勝ということになりましたが、今一步及ばなかった赤・青・緑の各級団も含めて、閉会式の時の生徒たち一人ひとりの充実した表情が、運動会の成功を何よりも雄弁に物語っていると感じたところです。

さて、戸山の運動会の目標は「運動会を通して、クラス・同学年・全学年の交流を深めると共に、それぞれの立場で、リーダーシップ、フェローシップを発揮し、協力の精神を学ぶ」というものです。リーダーシップについては、「指導者としての力量・統率力」といった意味でよく使われる言葉ですが、生徒が自主的・主体的に企画・立案し、学年縦割りで級団を編成する運動会において、全体の運営に当たる実行委員長や体育委員長、また級団をまとめる団長や副団長等のリーダーの役割が極めて重要であることは言うまでもありません。

一方のフェローシップについては、辞書を引くと「仲間であること・友情」等の意味が出てきますが、「共同・提携」、また「共同体・コミュニティ」といった意味もあります。志を同じくする者同士がネットワークを作り、一つの目標に向かって自分ができることに全力で取り組むことで、一人一人の力は小さくても大きな目標を達成することができるという確信が、このフェローシップという言葉の中に込められているのではないかと思います。

運動会の開会式で、私は全校生徒に「大いにフェローシップを発揮してほしい」という話をしました。これは、「ただリーダーに従っていればよい」という意味ではもちろんありません。むしろそれぞれがそれぞれの立場で自分のできることに積極的に取り組んでほしいという期待を込めた言葉です。大きな目標を達成する過程には、必ずいくつもの障害があります。あらかじめ想定できる障害については、事前に対処法をシミュレーションしておくことが重要ですが、それでも想定外の事態は、小さなことも含めてしばしば起こります。リーダーの指示を待っていたのではとても間に合わない、そのような時に、その共同体が目指す目標に向かって、その共同体の構成員一人一人が何をするか、何ができるかということで、その共同体の質の高さがわかります。逆に言えば、個々の構成員がフェローシップを最大限に発揮し、協力し合える強靱な共同体を作ることこそが、リーダーに求められる最大の資質であるといってもよいかもしれません。

この共同体におけるリーダーシップとフェローシップの関係は、運動会のような学校行事ばかりではなく、部活動にも当てはまりますし、一見個人の取組と思われがちな学習においても、当てはまる部分があるのではないのでしょうか。よく「受験は団体戦」と言われますが、これは仲間と切磋琢磨することの大切さを言っているのだと思います。運動会を通して学んだことを、今後の高校生活の充実のため、さらに各自の夢や目標の実現のために、生かして行ってほしいと切に願っています。